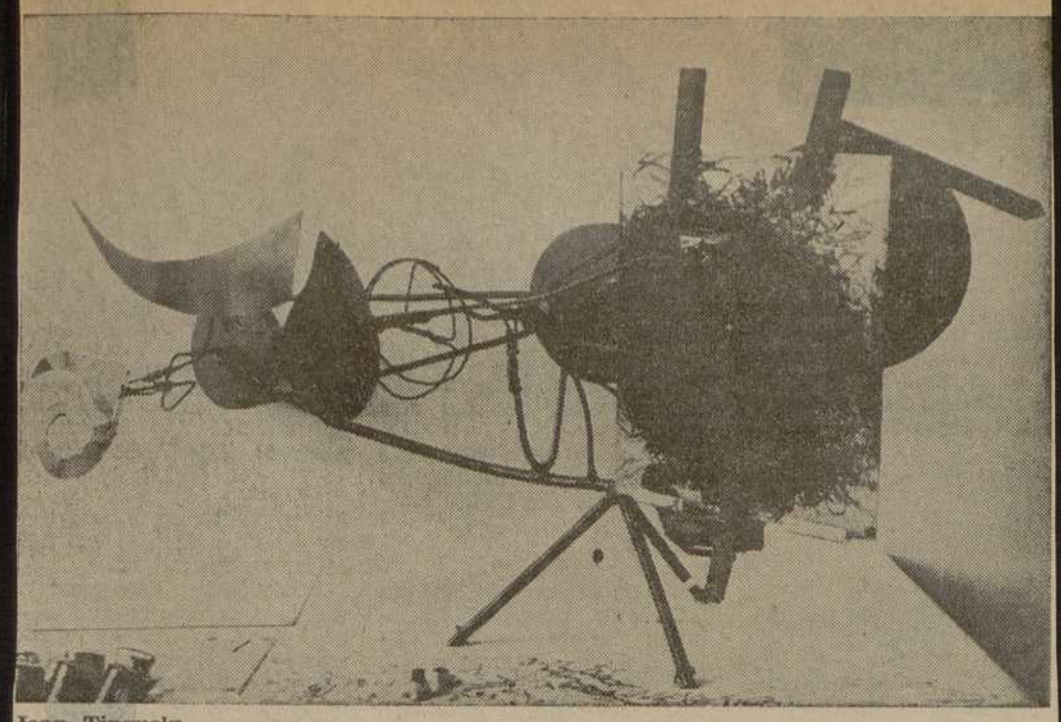
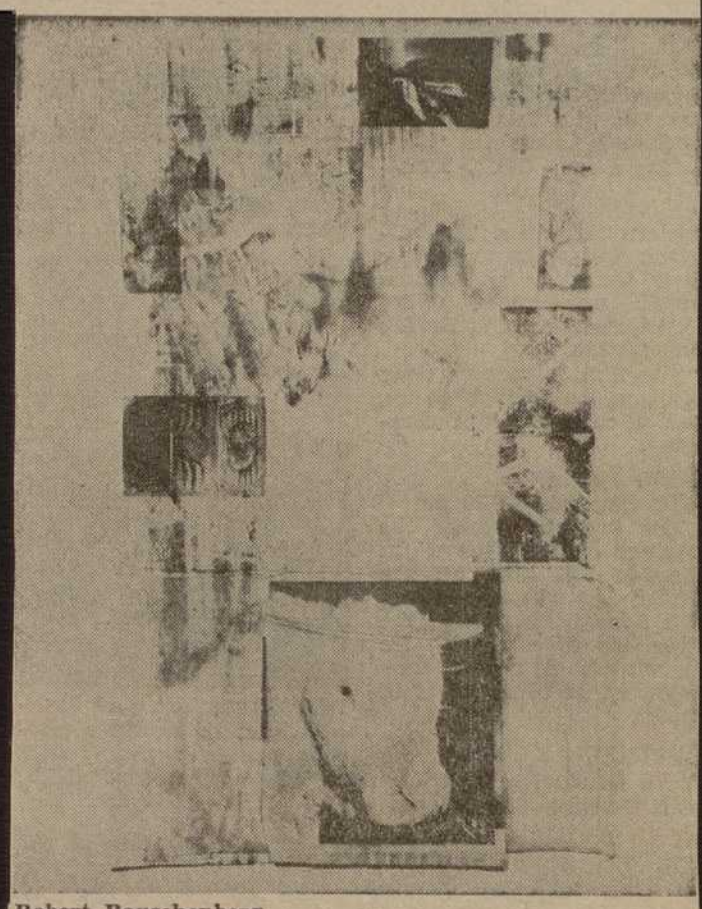


Jean Tinguely
"Meta Matic No 8"
Iron, Motor, 1959



Robert Rauschenberg
"Wick" (Hoarfrost Series)
Collage

Yves Klein
"ANT 123"
Paper on Canvas, 1960

読売新聞 東京
YOMIURI SHIMBUN Tokyo
1978. 2. 27
Biennal'

A

時代の証言

パリ・ビエンナーレ '59〜'73

国際現代美術展として、一九五九年から隔年に開催されているパリ・ビエンナーレは、新進芸術家たちの国際的デビューの場として、高い人気と評価を受けています。今回は第一回展から第八回展までに参加した主要作家の代表作の中から秀作五十余点を厳選し、わが国で初めて紹介いたします。ご期待ください。

3月3日(金)〜3月29日(水)
西武美術館(東京・池袋) 木曜日休館

【主な展示作品とその作家】▽フランス 6つのピスケットの箱=クリスチャン・ボルタンスキー、霧氷でおおわれた水銀=ジェラド・ティテューカルメル、工業的な絵画=ベルナール・ウネ、顔=クロード・ヴィゼー▽イギリス 緑のテーブル=アレン・ジョーンズ、ブレーキ=フィリップ・キング、正方形の中の動き=ブリジット・ライリ▽ドイツ 力への渇望=コンラート・クラフェック、鏡の点をもつ白い回転子=ハインツ・マック、自動区画=ギュンター・ユッカー▽スイス 牛飼いの長笛=サミュエル・プーリ、囚人の食事=ゲニエル・スペーリ▽イタリア 黄金の特色=ピエロ・ドラツィオ、フリッパー=ルーチョ・デル・ペッツォ▽スペイン 世界一の駿馬=エデュアルド・アロワイヨ、人体の側壁=エキポ・クロニカ▽アメリカ 店頭=クリスト、芯(白鳥シリーズ)=ロバート・ラウシェンバーグ、ケミカル=エドワール・ルーシャ▽日本 日用品=佐藤亜士、一九六〇Z=堂本尚郎、壁=榎倉康二、平面領環体に於ける融合反応=津軽塗からの発見=工藤哲巳、遠近法のテーブル=高松次郎など15か国、55作家、絵画・立体・版画など56点。

入場料
一般 六百円(五百円)
学生 四百円(三百円)
()内は20人以上の団体料金

◇詳細お問い合わせは、西武美術館、電話〇三(九八一)〇一一一へ。

主催 読売新聞社 西武美術館
後援 外務省 フランス外務省 フランス文化・環境省 フランス大使館

読売新聞 東京
YOMIURI SHIMBUN Tokyo
'78. 3. 7 夕刊
Bremeli'

A

脱絵画、脱彫刻の作品群一堂に

◇パリ ビエンナーレ回顧展◇

▲アレン・ジョーンズ「緑のテーブル」

手帳

戦後の現代美術の一つの台風の目になったパリ青年ビエンナーレ二十年をふり返る「時代の証言—パリビエンナーレ'59—'73」展が二十九日まで、東京・池袋、西武美術館で開かれている。

一九五九年、アンドレ・マルロー氏などの呼びかけで、三十五歳以下の若手芸術家の登竜門としてスタート、六回展まではモダンアートのオリンピック並みに国別参加で五十二か国が出品し、その影響力は急速広範に浸透した。アルマン、クリスト、ホックニー、フンデルトワッサー、ジャスパー・ジョーンズ、アレン・ジョーンズ、イブ・クライン、ギド・モリナーリ、ラウシェンバーグ、ライリー、ティンゲリー、ウンダーリッヒなど著名な現代作家たちの活躍の舞台となった。

今回の回顧展は現在の代表・ジョルジュ・ブタイユ氏が組織、ヨーロッパ作家を中心に八回展までの作品六十三点によって「歴史に先行し、芸術の発展を証明してきた歴史を跡づける」。

キャンバスに平面的な油彩といった既存の芸術への反逆批判を主流にした大半の作品は、あらゆる素材、手法を駆使した脱絵画、脱彫刻群で、コインを入れると自動的にデッサンを描く機械、ガラクタを透明プラスチックに押し込めた「ブルジョアの捨てた層」、女体が四つんばいになったエロチックな脚のテーブル、フライパンやスプーンをはりつけたり、ビスケットのブリキカンを並べた作品、回転する円板の文様が動いて変化する作品、ポップ・アート、プライマリーストラクチャー、キネティック・アート、コンセプチュアル・アートといったさまざまな呼称で登場した現代美術の原典が一堂に並ぶ。第一回から参加している日本作家も佐藤亜士、堂本尚郎、榎倉康二、工藤哲巳、高松次郎の作品が加えられている。

昨年西武美術館で開かれた「アメリカ美術の三十年」につぐ、戦後現代美術の回顧で、戦後つぎつぎと実験と挑戦に前へ前へ進んだ現代美術評価に見逃せぬ企画だ。

Biennale de Paris
朝日新聞滋賀版
ASAHI SHIMBUN LOCAL
1978. 4. 14

A

美術

人と作品 京都案内

ヘレン・フランケンサーラーの「夏の情景」

ヘレン・フランケンサーラー展 抽象絵画の女流作家として活躍している米国のヘレン・フランケンサーラー展が18〜27日、京都市東区祇園寺町前町、京都アメリカン・センターで開かれる。

透明感のある色調と叙情的な油彩の世界が彼女の特徴といわれている。第一回パリ・ビエンナーレ展で二位になるなど数々の国際展ですぐれた成績をあげ、その作品はニューヨーク・メトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館など多くの美術館に収められている。今回は一九四九年から近作までの約六十点が展示される。

第2日曜会春展 16日まで、中京区寺町通二条上ル、画廊鬼。下村正信ら約十人の洋画。

岸田蒼坪遺作展 16日まで、府ギャラリー。日本画▽18〜22日は「京都彫刻家連盟展」。

やまもと寛行陶展 17日まで、中京区河原町通四条上ル、マロニエ画廊。宇治・炭山在住。

島田好江セリグラフ展 18日まで、下京区四条通烏丸東入ル、土橋画廊。京都洋版画選抜展などに出品。

山下関城作品展 18日まで、大丸京都店五階画廊。四季の鯉を。

二紀会20人展 19日まで、丸善京都支店四階画廊。金田辰弘、宮永佑彦、山本文彦ら会員の洋画。

金和鳳新作展 15〜20日、城陽市寺田垣内後、檜画廊。洋画。行動美術会員。

オスカー・ココシュカ展 15日〜5月28日、京都国立近代美術館。戦争で負傷、十年間の放浪など波乱の生活を送り、いまも制作しているドイツ表現派の巨匠、有料。

伊藤久三郎遺作展 17〜23日、中京区御池通御幸町角、京都繁栄ビル二階、御池画廊。戦後行動美術会員として抽象画を。二十数点。

花園大学書学会展 18〜20日、京都市美術館。珍しい書の原拓本も特別陳列。

大向務展 18〜23日、中京区寺町通三条上ル、平安画廊。「変形遊び」と題したシルクスクリーン。

島州一展 18〜23日、中京区三条小橋東入ル、ギャラリー射手座。東京の現代美術家。両脚を表現した立体など。

奥田博個展 18〜23日、中京区寺町通三条トル一筋目東入ル、ギャラリー16。陶芸。信楽町在住。

新象関西作家展 18〜23日、府立文化芸術会館。蔡嶽、谷イサオ、北野しげとしら約二十人の洋画。

第一回グループゆめびと展 18〜23日、中京区新京極四条上ル京映角東入ル、画廊ソワーレ。辻三郎に習っている石田和子、加藤正子、鎌野道子らの洋画。

田中良平銅版画展 18〜23日、東山区新門前通梅本町、山田画廊。京都近郊のわら屋根の民家を。

木村秀樹個展 18〜29日、ギャラリー16。シルクスクリーンの版画。鎌倉美術短大講師。